

あとかき

新世紀まであと残すところ4年、97年の新年を迎えました。皆さんはどのように迎えましたか？おとそ気分と言いたい所ですが、世の中見回しても、研究所の中を見回しても、全く先の見えない状況にあります。周りからも内からも、リストラ、リストラの掛け声厳しく、柄にもなく、正月早々風邪（インフルエンザ）をひいて寝込んでしまい、高温にうなされる毎日でした。今年ほど、健康のありがたさを身をもって体験した年はありませんでした。

このごろ、核データを基幹産業に喩えて考える事がよくあります。基幹産業とは何でしょうか？長い目でみて、はやりすたりなく人間の生活を支えていく産業が基幹産業でありましょう。そうした基幹産業は今をときめく成長産業である必要など全くありません。同じ事が核データにも言えるのではないのでしょうか。核データは、原子力の中での基幹産業です。こうした基礎研究は、周りから脚光をあびるトピクス研究ではないでしょう。むしろその逆で、原子力全般に貢献する総合インフラを提供するのが核データの研究ではないのでしょうか。そして、ゆっくりでも良いから地に足のついた社会資本（核データ）の構築をしていく事が必要なのだと思っています。また最近、インターネットの発展を見るにつけ、データを発信して、核データに興味を持ってくれる人を見つける事が重要なのではないかと思う様になりました。そういった人達の力を結集したら、かなりの事が出来るのではないかと思うのです。いろいろな人達が、それぞれの違った見方で核データを自由自在に使ってそれぞれの発想で原子力開発に貢献する。そんな素地を作っていくのが我々の役目ではないのかと考えております。本誌は、そのなかの、コミュニケーション紙として役立てていければと考えております。皆様のご協力をお願いいたします。

長谷川 明

e-mail: hasegawa@cracker.tokai.jaeri.go.jp

核データ編集委員会

柴田 恵一（委員長、原研）、井頭 政之（東工大）、岩本 修（原研）、
喜多尾 憲助（データ工学）、高田 弘（原研）、長谷川 明（原研）、
吉田 正（武蔵工大）